

インマヌエル中目黒キリスト教会

2009年6月21日

ピリピ書連講③

「逆境をも喜ぶ」

ピリピ人への手紙 1章12-18節

竿代照夫牧師



聖書朗読

新約聖書

ピリピ人への手紙 1章 12節- 18節

12 さて、兄弟たち。

私の身に起こったことが、

かえって福音を前進させることになっただのを

知ってもらいたいと思います。

13 私が
キリストのゆえに投獄されている、
ということは、
親衛隊の全員と、
そのほかのすべての人にも
明らかにになり、

14 また兄弟たちの大多数は、
私が投獄されたことにより、
主にあって確信を与えられ、
恐れることなく、
ますます大胆に神のことばを
語るようになりました。

15 人々の中には
ねたみや争いをもって
キリストを宣べ伝える者も
いますが、
善意をもってする者もいます。

16 一方の人たちは愛をもって
キリストを伝え、
私が福音を弁証するために
立てられていることを
認めています、

17 他の人たちは純真な動機からで
はなく、
党派心をもって、
キリストを宣べ伝えており、
投獄されている私を
さらに苦しめるつもりなのです。

18 すると、
どうということになりますか。
つまり、見せかけであろうとも、
真実であろうとも、
あらゆるしかたで、
キリストが宣べ伝えられている
のであって、
このことを私は喜んでいきます。
そうです、
今からも喜ぶことでしょう。

説教

ピリピ書連講③

「逆境をも喜ぶ」

ピリピ人への手紙 1章 12節— 18節

竿代照夫牧師

主テキスト：

「さて、兄弟たち。
私の身に起こったことが、
かえって福音を
前進させることになったのを
知ってもらいたいと
思います。」

(ピリピ1:12)

A. 自分の逆境をも喜ぶ

(12-14節)

1. 囚われの身となった（12節）

- 「私の身に起こったこと」：
「証し」の原則
- パウロの刑務所生活：
エルサレムで捕縛（56年）→
カイザリヤ幽囚（56—58）→
ローマへ護送（58）→
ローマで軟禁状態（59—61）
- 「かえって」：
逆境が福音の前進に役立った

2. 「キリストのための捕縛」で 有名に（13節）

- ・パウロの捕縛がニュースとなる
- ・皇帝の親衛隊に知られる
- ・親衛隊を通じて、
他の人々にも伝わる（4：22）
- ・ヤンシー：
「鉄格子の中の教会」

3. 他の兄弟たちを励ます(14節)

- ・パウロの刑務所入りの影響
- ・少数の人々には、恐れの原因に
- ・大多数の人々には、励ましに

B. 他人の伝道をも喜ぶ(15-18節)

1. 福音を伝える多様な動機 (15—17節)

- ねたみや争いから伝道する人
(v s 善意からの伝道)
- 党派心から伝道する人
(v s 愛の動機からの伝道)

2. パウロの寛大な精神（18節）

- どんな動機であれ、
キリストが宣べ伝えられるのを
喜ぶ
- 主イエスの寛容さに通じる
（マルコ9:38—40）

終わりに

- どんな逆境も、
愛なる神のみ許しなしには
起きないことを信じよう
- 逆境は神の業を妨げず、
福音の前進を齎すチャンスと
変えられると信じよう